

＜天と地を結ぶ梯子＞

創世記28：10～19



高齢になったら『きょういく』と『きょうよう』そして『ちょきん』が大切。
クリスチャン生活はこの大切なことを網羅している！

「老い」は神から与えられた大切な時。

それを感謝して受け取ったヘルマン・ホイヴェルス神父の詩

この世の最上のわざは何？ 楽しい心で年をとり 働きたいけれども休み しゃべりたい
けれども黙り 失望しそうなときに希望し 従順に、平静に、おのれの十字架をになう
若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを見ても ねたまず 人のために働くよりも
謙虚に人の世話になり 弱って、もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であること
老いの重荷は神の賜物 古びた心に、これで最後の磨きをかける 真のふるさとへいく
ために おのれの事の世につなぐくさを少しずつはずしていくのは、真にえらい仕事 こうし
て何もできなくなれば、それを謙遜に承諾するのだ 神は最後に一番良い仕事を残してく
ださる それは祈りだ 手は何もできない けれども最後まで合掌できる 愛する全ての人
の上に 神の恵みを求めるために 全てを成し終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう
「来よ、わが友よ、われ汝をみすてじ」

◆ヤコブが夢で見た梯子は、天と地をつなぐものだった。

神の世界と人間の世界とをつなぐ架け橋があることをヤコブは体験した。

見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。【15節】

【ヤコブ】

- ・押しつける者という意味。双子の兄のかかとをつかんで生まれてきた。
- ・父はイサク、お祖父さんはアブラハム
- ・長子の権利を自分のものにしたいと、策をめぐらして父をだまし、兄を出し抜いた。
- ・後悔と先の見えない不安に悩みながら、石を枕に身を横たえた時に夢を見た。

神様がこんな自分と共にいて下さる！

◆「決して見捨てない」……罪を赦して新しく生かして下さい！

ヤコブは眠りから覚めて、「まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった」と言った。

【16節】

天から地に向けてかけられた梯子は、神様の救い。

主の祝福は上から流れて来る。

◆救いは、自分を高め、立派になることで得られるのではない。

神ご自身が降りてきて下さることによって実現した。

神の御子キリストが人として生まれ、十字架に架かれ救いの道を完了した。